

施工における注意事項

現場の環境に応じて、下記の点に注意してください。

1. 施工前は少なくとも48時間は摂氏20度、湿度35～65%の環境に置いてください。
2. 下地に不陸が無く、ごみなどが落ちていない状態であること。2mの距離で±2mm以内の水平レベルが必要です。
3. 下地は十分に乾燥している状態であること。新しいコンクリート下地の場合、十分な養生期間をおいて施工してください。（下地の含水率10%以下）同時に床下からの湿気対策に十分注意してください。
4. 天然木のため、色の濃淡や木目の違いがございます。施工の際は、必ず仮並べを行ってから施工してください。
5. 複層フローリングでも温度・湿度変化により、多少伸縮します。壁際は5～10mm程度のクリアランスを取って幅木を後付けしてください。フローティング工法の場合は、10mm以上のクリアランスが必要です。掃き出しサッシとの取り合いも見切り材を使い、クリアランスを取るようになしてください。
6. 接着剤は、ウレタン系またはエポキシ系の木質フローリング用ポンドをお使いください。
【通常】1 液型ウレタン系接着剤（参考商品：コニシ KU928 等）
【直貼りなど湿度の高い環境の場合】2 液型エポキシ系接着剤（参考商品：コニシ E350R 等）
7. フローリングの表層は、直接ハンマー等で叩かないようにしてください。必ず当て木をご使用ください。反りや突き上げの原因となります。
8. フローリング間のスペースは不要ですが、サネをしっかりと差し込んでください。
9. フローリング施工の途中に配管等が来る場合は、フローリングの膨張伸縮を見越した寸法でカットしてください。

instruction 下地別 施工方法

1. 捨貼り

12mm厚以上の耐水捨貼り合板の上に施工する方法。合板とフローリングの間に防湿シートは結露の原因となるため、使用しないでください。下記の施工方法が可能です。

- ① 糊・釘併用工法 …… 直貼り工法より接着剤の使用が少なく済む木下地用の一般的な工法。
- ② フローティング工法 …… サネ部分にのみ接着剤を使用する工法。

※全面接着工法（直貼り工法）は推奨しておりません。厚みと幅のある製品特性上、割れ等の原因となります。

2. コンクリートスラブへの直貼り

下記の施工方法が可能です。

- ① フローティング工法 …… サネ部分にのみ接着剤を使用する工法。
下地からの湿気防止のため、0.2mm厚程度の防湿シートが必要。つなぎ目が200mm以上重なるように敷き込んでください。不陸がある場合は、不陸調整・防湿のための下地マットを使用してください。

※全面接着工法（直貼り工法）は適合しておりません。

3. 既設フローリングへの施工

リフォームなど、既存の床の上にそのまま施工することも可能です。下地の不陸及び消音には、十分注意する必要があります。

- ① 糊・釘併用工法 …… 直貼り工法より接着剤の使用が少なく済む木下地用の一般的な工法。
- ② フローティング工法 …… サネ部分にのみ接着剤を使用する工法。

※全面接着工法（直貼り工法）は推奨しておりません。

施工後における注意事項

フローリング表面に擦り傷が付かないよう養生シートを敷き、床用養生テープで止め、その上に段ボールや合板を敷いて養生してください。養生テープは接着が弱いテープを使用してください。長期間接着を続けると、糊残り、変化、塗装面にテープが付着するため注意してください。養生したシートの上には物を置かないでください。また、足で踏まないでください。室内の換気は十分に取ってください。特に夏場の高温や冬場の急激な暖房にもご注意ください。養生が不十分である場合、表面や木の目に埃やチリが残り、通常のクリーニングでは取れなくなる事があるため、色の濃い商品の養生はご配慮ください。